京城新報

人の一生は重荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十二年　紀元二千五百六十九年
本紙定價　▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵稅一ヶ月十三錢
大祭日及び日曜日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人　高木久馬太
印刷人　松久神一郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所　京城新報社

甘茶澁茶

▲吾我を欺かず●●●●●●
指きり金きり臂を刺して一札如件に血を捺しキット夫婦となるべきことを誓ふも一朝にして冷たき流れの兩人の間に注ぎ來らば血判終に物言はずして一札如件の如きは反古となるなり、誓書の百札あるとも亦た何をか爲さんや、人と相誓ふは唯心にあるのみ心にしてくるゝ無からば下らぬ誓書は無くても識なり、要は唯誠字にあるべく吾は唯我を欺かざれば足るなり。

▲夢見に終らん●●●●●●
人の一生は重荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからずとは云へ決して憩ふべからざるなり、果報は寢て待てとは云へ決して睡るべからざるなり、憩へば則ち夢は擧れり、睡れば則ち報來らず、急がず睡らず待つあるべしと雖ども然れども事を捕ふの力なくては遂に其れ夢見に終らんか。

▲月明自朧朧●●●●
物を觀るに主觀と客觀とあるなり、而して克く之を觀んと欲せば必ずや主觀と客觀とを要す、一方之を缺けば遂に見を誤まる、唯客觀のみに是れ由る時は數々象を平面にのみ現はすことあり唯主觀にのみ是れ由る時は偶々影を二樣に寫すことあり、世間往々にして賢愚の分たれざるものありと云ふは大概一方を缺ひて物色するが故にして是れ猶ほ醉人が月を見るに朧朧として二つに見ゆるが如きなり、人を見んと欲せば必ずよく瞳を据ゑて見ざるべからず

雜報

北韓の近事
●小倉主計監の談●

北韓に出張して一昨十一日夜歸任せられたる小倉主計監を軍司令部に訪ひ其視察談を聽く。曰く、予が今回出張の用向は主として北韓に於ける軍用地の調査運輸の設備と其の實施に關する件及會寧に於ける歩工兵營基礎工事中に付き其狀況を見んが爲めにして一般地方の狀況に至りては仔細に觀察するの遑なかりしも唯予が見聞せし二三を語らんに

▲交通　は今時固より十分を望む能はずとするも尚不便ならずと云ふを得ず今假りに會寧に赴くとせんか釜山を出帆して元山及城津に寄港し各二十四時間以上繋泊して淸津に着し同地より羅南に至る十五哩は日露戰役當時敷設されたる手押式輕便鐵道に依り羅南より會寧迄七十五哩間亦輕便鐵道に依る此の途中茂山嶺の嶮峻あり頗ぶる難路なるが這も亦日露戰役の遺物にして軍人軍屬及軍需品輸送の餘力を以て旅客又は地方人の用に供し居れり

▲羅南　は鏡城と輸城の間に展けたる大平原中にあり三方山にして要害の地なり兵器は略々落成し予が着したる時には既に諸兵の移轉を了り居たるも未だ落成式を擧げざりしにより本月三日天長節の佳辰を以て之れを擧行したり北韓の地に斯る雄大なる衞戍地を占め得たるは眞に心丈夫に感ぜらる本邦人は約一千名あり兵營を距る五六丁餘の鏡城街道に軒を並べ商家は店頭に貨物甚だ豐なるを見たり山手には遊廓も在り景氣好し去れど家屋は悉く假小屋式にて永住の設備を爲せる者なし原來陸軍にては兵營に接したる軍用地内に市街を建設するの計畫を立て地所を貸下げ居れども建築家屋に制限を設け例のバラック建を許さゞる爲め前述の如く鏡城街道に市街を作したるが如し之れ資本の關係もあるべく且居留者の幾分は大工事の爲め入込みたる者なれば今日の好景氣は永續すべきにあらずとの見を持せるにも依るべし予も斯る急速の發展が十分健全なるべしとも思へず而かも所定の市街地も大部分は希望者に貸付けたるに依り來年秋の頃にもならば一大市街の形成せらるべきを豫期す市街は歐洲式に設計せられ即ち中央は公園にして其周圍に官衙、學校、病院、銀行等を啓き普通人家は其外に建てしむることゝせり學校を軍用地内に建築中にて今は假校舍を用ゐ居れり（未完）

俳句

●五吟集總評（一）　むら

怒られては困るが何うも臭味がある、想も句調も舊いのは差し閊へないが卑いのにはウンザりする、想と調の舊いのは吟者其の者の夫れが卑いのではなくて題とか結字とか云ふ窮窟のものを限るからである、●●●●●●●●●題を課し結字を定めて何を作ると云ふのは餘興に催すべき時に限られたい、結字を課するのならば題を廢くして吟想？を恣にせしむべきであらう、題を限ると云ふことが少なからぬ苦痛である、然るに更らに結字を附するなぞと云ふ拙な眞似をするから然うなるのである、決して吟者の罪ではない、型に入るれば鐵でも其型以外には出ぬもの、此れは僕の一家言ではないのだから特に幹事諸君の參考に資する次第である。

想と調の舊くなると云ふことは以上の原因があるのだが、調や想の卑いと云ふことは誰れの罪でもない作家其のもの罪である、自身の句を自身が直ちに世間に發表するのなら反覆考覈して推敲に推敲を重ぬる必要もあるが、既に撰者があつて曲りなりにも撰する以上はかりに考へぬが宜しい、此れも怒つては困るが考へて却つて惡しくする例は幾何もある、●●●●●●●●●●●翔んや俳句は考へるものでないもの、目に觸れ耳に聽きたるものを直ちに詠み出でゝこそ妙味一層なるものである、どこまで申したら題を課し結字を附するの不可なる所以は明瞭であらう、想の卑いのは俳句は平民文學であると云ふ生若い議論に捉へられたる心理作用が然らしむるのである、平民文學と云ふ、平民と云ふものが社會的地位の低いものだから其の文學と云ふ以上は高尚に〳〵と心掛けたら却つて平民文學と云ふ旗幟に疵が附く、との樣に誤解せらるより來るものと、僕は斷じて居る。

◎新刊紹介

●婦人界（一の七）　婦人世界と伯仲の雜誌にして本誌には女子と迷信、虚榮に憧れたる女の運命、誤れる化粧法、家庭料理等讀むべき短文和歌俳句化粧問答小説雜報百般の記事備はり口繪挿畫は例に依て多く美し△東京日本橋本町三金港堂書籍株式會社△廿錢

●實業之日本（一二ノ二三）　新渡戸の日米問題に對し我國民は如斯覺悟を要す、親切を施すには如斯注意を要す、増田の家庭の平和は如何にして保つべき其他三井内閣實業通信、不景氣時代事業經營の秘訣其他例により成功失敗談等讀むに足るもの多し△東京京橋紺屋町○社△拾一錢

●滿韓旅行案内（第五號）　表題の通り滿韓地に關する滿車滿船に就て有ゆる事項を載する外沿線各地の重要概況用語より旅行便覽地圖などあり又た日誌の記入欄をも設く△毎月一回一日大連信濃町南滿州社發行

●染髮（十一）　消毒法の勵行、如何にして美人となるか、最新式の美顏術、顏の濕し方、顏の恰好と結髮、髮の養生、像國の化粧法文苑等專門家以外にも一讀の値あり△大阪西區阿波座上通二關西理髮會△十錢

●貿易月報（十四）　貿易、貿易關係事項、稅關報告を載す次號よりは貿易彙報と改題す△關稅局發行



第三十一席
伯山改　神田松鯉口演

爲朝の弓勢で淸盛は靑くなつて慄いた、重盛は大いに憤慨し「武士勅命を受けて敵に向ふに、敵強しとて退くことやあらん」と引退くのを、淸盛は平と獨り馬に鞭つて引返した、淸盛は平宗徇に命じて無理に重盛に馬の轡を執らせて退かした、淸盛と云ふ人は幸運なもので若し此時此門へ向つたら、淸盛も重盛も爲朝の唯一發の矢の下に討死をしたに相違ない、山田惟行從者の馬は鞍に矢の突つた儘義朝の臣政家の陣中へと跳入る、政家之れを義朝の陣に持來り「我が君御覽候へ、八郎殿の射給はる所でございませう、實に世にも恐ろしき弓勢でござる」と舌を卷いて懼怖した義朝は「イヤ八郎の剛弓は兼ねて聽いて居れどまだ年十八九にして是程の力はあるまい、久しく逢はなんだに依つて其力も何程あるや知れぬ、兎に角汝一當あてゝ見よ」と言はれ「畏つて候」と百騎計りを從へワアッ〳〵と關の聲を揚げて進んで來た、やがて政家は弓に矢番へて放つたのが爲朝の甲の半首に中つた、爲朝大に怒り「惡くき下郎の振舞かな其儀ならば何條當方に於ても敢て遠慮致すべき、者共進めッ」と下知して自から陣頭に立つて進み給へば、廿八騎の面々も我劣らじと突擊する其勢の凄まじさに政家一戰も交へずして退いた、爲朝も敢て長追をせずして引返し門に入らんとし給へば、忽ちに義朝大軍を率ゐて殺到し義「ヤア〳〵八郎、汝は兄に向つて弓を引くか」と罵りますれば爲朝は「コハ奇怪のことを承はるものかな、兄上は何故父に向つて刀を揮はるゝぞ、自から不孝の罪を犯しながら我れの不悌を責めらるゝこそ片腹痛し」と罵り返す、義朝は語塞つて何とも返答されず爲朝の人數少なきを見て擊つて掛つた爲朝は敵の多いのを見て、中をかけ隔てられては危ひとサッと許りに門へ入り扉の所へ陣取つて敵來らば一人も門内へ入れまじとイト嚴重に備へられた義朝の軍も容易には進んで來ない、此時爲朝は弓に矢を注ひ兄義朝をば一發に射止めんとは思はれたけれど、熟々考へ給ふに、父は此に在り兄は彼れに在り畢竟親子兄弟相分れて戰ふは何れが勝ち何れが負けても、互ひに命乞ひをして助け合ふことも出來やうと、折角注へたる矢もはづしてしまはれた、此時義朝の軍五百餘騎、進め〳〵の號令と諸共に勢込んで攻來る、爲朝も心得たりと、廿八人疾風の如くに敵中へ跳入る、當るを幸ひ四方八方へと斬捲り突捲た、中にも八町礫紀平治の面々一度に五人を倒し十人を傷つけ、叫びに叫んで戰つたれど、如何に鬼神の勇あればとて廿八人と五百餘騎だから到底敵する道理がない、況して義朝の軍中には關東名代の荒武者も多くあることゆゑ、御曹司の方危く見ゑたれば、爲朝は如かず此處で敵の大將を威かし我が弓勢を以て敵を退け呉れんと、義朝が寶莊嚴院の門前に馬を立てたるを見給ひ、大鳴鏑を取出された、此鳴鏑と云ふは矢に鈴が仕込みあつて風を切つて飛ぶ時は、恰も雷の如き響を發します是れは重に敵の膽を寒からしむる時に用ゐるので敵を威すに使ふのであります、爲朝は件の大鳴鏑を滿月の如くに引絞つて兵と放しますれば、其義朝の兜の星を貫き寶莊嚴院の門の半分まで射込んだ、義朝一時はアッと驚かれたが「ヤア〳〵八郎よ、汝が射術未だ精妙ならず、今少し修練がなくてはならぬぞ」爲朝カラ〳〵と打笑ひ「わざと射中さゞるにて候、若し命せられしば何處にても射中さん」と再び弓矢注へたる時、深巢淸國進んで義朝の矢面に立ち、見る間に射斃されます、其内に戰さは益烈しく相成り入亂れて猛鬪されました流石に諸大將が必死となつて戰はれるのでなか〳〵義朝、淸盛等もそれを破ぶることが出來ません、義朝も今は詮方なく西門の方へ火を放ちましたので焔も烟も盛んに立昇り、折柄の西風に殿中上へ下への大混亂、遂に上皇の方大敗軍となりました、爲朝も最早是迄なりと廿八騎一歩も退かず奮戰、突擊して、高間三郎は金子十郎に討れ、手取與二は仙波七郎に組敷かれ、惡七別當は齋藤實盛に首を授け、大矢新三郎、越矢源太、松浦二郎、打手等皆討死をした。

京城新報

韓銀の開業に就て

韓國銀行は、既に諸般の準備を了へ、市原總裁以下理事監事に至るまで、夫れ夫れ既に人選をも了へ、近く將に來る二十一日を以て、第一銀行より財產の引繼を受け、二十四日を以て業務の開始を見るに至らんとす。而して如何なる理由の下に韓銀の韓國に設立せらるゝに至りしか、又た如何なる方法さ如何なる方針との下に、如何なる業務を執るべきかは、世人の既に知悉する所なるが、余輩は種々の事情に因り世の批難の隨分集まりたる第一銀行の業務を此の新たなる韓銀に引繼ぐを見るに當り多少の憂なき能はざりしも余輩は今韓銀が一銀の業務を直に其の儘に引き繼ぎたるが上に、韓銀の重役の顔が一銀の其れと殆ど同一なるを見るに及んで、必私かに杞憂の程度を減せんとす從來一銀が受けたる世上の批難が果して其の當を得たるものなりしや否やは、余輩の知らざる所なりと雖ども苟も數々批難の放たれたるより見れば多少は世間に就ても又銀の內部に於ても何等かの事情の伏在しありたるやも圖り知るべからず、而して韓銀が今其の業務を引繼ぐに當つて、此の放たれたる批難の聲も亦た同時に嫁せられざるべからざるは、數の免かれざる所にして、新たに就職せる重役諸子の當に覺悟せざるべからざる所とす、然れども余輩は斯く言へばとて、直に韓銀の先幸なからんを言ひたるものには非ず韓銀の重役行員の殆んど全部が一銀の人々にして多年親しく一銀に於て一銀の嘗めたる苦痛及び受けたる批難を知悉し經驗したるを以て、此の批難の由て以て來る所を改め、將來應に執るべき方針乃至は應に戒しむべき事柄をも辨へ、韓銀をして其の過ちを再びせしめざらんとには最も以て都合よき也。韓國銀行が之を內にして、株主等の滿足する迄に、十分の配當を行ふことゝ之を外にして自ら中央銀行の立ち場を忘れ、他の諸銀行と競爭せざるべからざるが如きに至らしめざるとは、一に係つて重役諸子の腕によるべきも、之れは是れ多くの日月を經るにあらざれば、ナカ〱以て功を見ざるべき也。余輩は韓國銀行の今將に開業せんとするに當て一言將て此の事に及ぶは、亦た同行の先途を祝福すればなり、若し夫れ精細の論評に至つては、他日之を其の營業振りに見て、大に試みる所あるべしと雖ども願はくは韓銀の重役たる諸子が此際愼重に愼重の態度を持し開業早々何れの方面よりも批難の聲を浴せられざる樣覺悟を有せんことなり。

東京電報

▲歳入と歳出總計 大藏省主計簿による調査に依れば四十二年十月卅一日迄の歳入現計は歳入總計三億七千六[illegible]二萬千六百九十圓三十錢にして之を先年同期に比すれば九千九百六十二萬千四百四十圓を增加し歳出總計は二億五千六百十二萬八百三十四圓にして之を先年同期に比すれば千八萬五千七百八十二圓を減じたり（十四日發電）

▲對韓問記者談 新聞通信記者其他同志者は昨夜階樂園に會合し左の決議を爲せり（同上）
吾人は韓國の現狀に鑑み根本より對韓政策を一變するの必要を認め此が遂行を期す

▲郵船支店の廢止 郵船會社浦鹽及仁川の兩支店は今回廢止する事に內定し事務は代理店をして處理せしむる筈（十五日）

▲兩殿下と除幕式 旅順表忠塔の除幕式には伏見宮及び東伏見宮兩殿下參列の事に略ぼ決せるが御乘船は春日、日進の二艦也（同上）

▲キ元帥の出發期 キッチナー元帥は愈々明十六日西下十九日神戸より乘船歸國す（同上）

▲觀光外人の增加 秋氣觀光の爲め都下に漫遊する外國人客月來非常に多數となり橫濱ホテルに宿泊するもののみにても百六十七名の多きに達し之を昨年同期に比すれば殆んど二割の增加なり（同上）

▲倉知局長の歸朝 倉知局長は二十日頃迄に歸朝すべしとの報あるも安重根事件の終了迄滯在すべしと（同上）

▲日本醬油の今後 不正醬油檢擧の爲め大打擊を受けし日本醬油會社は岩下取締役の歸朝を待ち善後策決定の筈なるが結局古來の釀造法に依り營業を繼續することとなるべし（同上）

▲旅順は開放に決す 政府は旅順軍港を廢し商港となすに決し近日發表の筈なり（同上）

▲桂首相の大阪行 伊公薨去の爲め中止となりし桂首相の大阪行は大藏大臣として造幣局の貨幣鑄造試驗に立會ふ必要上本月二十日頃再び實行するべし（同上）

▲乃木大將の渡滿 旅順白玉山上に建設したる表忠碑除幕式は十一月廿八日擧行に就き左の通り渡道を命ぜられたり（同上）
軍事參議官陸軍大將 伯爵 乃木 希典
御用有之滿洲に被差遣
軍事參議官副官砲兵大尉 伯爵 山田 英夫
軍事參議官伯爵乃木希典滿洲差遣に就き隨行被仰付

▲御名代宮の變更 十九日擧行の海軍兵學校卒業式に御差遣の筈なりし東伏見宮御風氣の爲め竹田宮恒久王殿下差遣のことに變更されたり

▲八代鹿兒島鐵道 八代鹿兒島西海岸線鐵道は本期議會に政府案として提出すべく目下測量中也（同上）

▲駐墺大使は未定 墺國大使後任に就ては最初牧野男に交渉せしに事情あり辭退せる爲め目下行惱みの體なり（同上）

▲伊集院公使歸朝 同公使歸朝は九月以來の問題なるも今回の歸朝說に就ては未だ何等の通告無しと（同）

▲兩領事召還理由 水野總領事の召喚理由は大西洋沿岸狀況及實業界の結果報告の爲めなるが田中シヤートル領事の召喚は通商局勤務となり高平阿部氏と共に關税改正準備事務に從事する爲めなりと（同上）

▲領事欠員ご任命 目下田中領事と共に領事に三名の欠員あれば遠からず領事官補より拔擢し尙五名の外交官試驗及第者は來月上旬採用すべし（同上）

▲日本銀行增資說 日本銀行は財界の發展に應じ基礎を鞏固にすると一は韓國銀行合併の必要あり增資を斷行すべしとの說專ら市場に傳はるゝも無根の風說なりと（同上）

▲二領事の新任所 總領事有吉明氏は上海在勤を副領事土屋粂藏氏は芝罘在勤を命ぜられたり（同上）

▲淺間山の大鳴動 淺間山鳴動して香櫓雷の如く噴烟には至らざりしも爲めに人心恟々なり（同上）

▲井上孝哉氏昇叙 佐賀縣知事井上東拓理事は左の如く昇叙されたり（同上）
佐賀縣知事井上孝哉 叙高等官二等

歐州電報

▲露國と日本將校 日本陸軍特派員一行は聖彼得堡に着し特別の待遇を受け且露帝よ一行の爲め特に晚餐會を開きたるが新聞紙は之等を日露親厚の兆なりと稱揚せり（十五日東京經由）

▲西印度の大海嘯 西印度に大海嘯あり死傷夥しかる可（同

新報

來年度の歳入豫算

內國税徵收來年度豫算は已に調定を了り同時司計[illegible]となりたるが同歳入額も別項暴徒の跋扈による被害により大なる打擊を受け[illegible]徵税編製上大なる苦痛を[illegible]が幸ひ徵税調査を行ふと共に歳入[illegible]增加の好傾向に向ひつゝあり[illegible]結果[illegible]來年度の歳入豫算額も本年よりは無論增加の成績を計上する事を得るなりと

軍司令官の出發

軍司令官大久保大將は南韓暴徒討伐の結果及駐箚軍の情況伏奏の爲め今朝南大門驛發東上せられたり見送人は石塚長官、石井、榊原兩少將、外波大佐、三浦理事官、佐竹秘書官、其他司令部憲兵隊各將校統監府各高等官及韓國側よりは李總理各大臣次官、趙總管、李親衛府長官同武官等にして又龍山よりは木越師團長以下各將校見送り盛んなりき

滿韓大豆の比較

普通大豆は皮の厚薄を以て品質の良否を斷定するものなるが韓國產は滿洲產に比し纖維分少なきは即ち皮の薄き所以にして品質の優れたる證據とも云ふべきが今關税局に於て韓國大豆の成分を分析したる表に依れば大豆の必要成分たる油分炭水化物蛋白質三者の合計は韓國大豆は八一七にして滿洲大豆は八〇一なるを以て前者は後者に優れたる事九なり之れ韓國產が滿洲產に比して俗にゴの多き所以なり尙ほ注意すべきは韓國大豆は主要產地の中等品を採りたるに過ぎざれど滿洲產は某會社が歐洲に販路を求むる爲め要用者は其成分を示すべく最良品を撰みて分析したる者なるを以てしても韓國生大豆の滿洲產大豆に比較し其品質に於て數等優れたることを知るべし

暴徒出沒と徵税

地方暴徒により受くる官民の被害は直接間接に實に莫大のものなるが就中徵税に及ぼす影響は甚大なり固より各地方により多少の程度を異にすれども殊に甚しきは三南地方なりとす是を各道別に上記すれば本年一月初調定額として全羅南北道地税約百八十萬圓同慶尙道百六十万圓中全羅道のみにて約九十万圓の被害慶尙道は境を全羅に接せる部面最も酷しく北部へ至りて漸く稀薄なり他黃海道は六十万中一割五分乃至二割江原道は十五萬中約二割の被害にして全國を通じて一割五分强に上るべし以上は唯單に地税のみなるが家屋税等の新税に關する分は未詳なれども是亦た同樣の被害は免れざるべし要するに上叙暴徒の跋扈は單に地税一面よりするも國政振作を妨碍するもの頗る大にして其一日も速に鎭定に歸せんことを望むと某當局は慨然として語れり

官選民長問題再燃

熊谷京城居留民長の突然的退職に際し後任者の撰定を行惱み理事官の諮問に應じたる民會議員の意向は彼が如く意見の統一を見る能はず統監府亦是に對して斷然たる處置に出づるを得ず此結果各町の有志者は今十五日午後六時より商業會議所樓上に集會し此際官選民長撤廢期成同盟會の主旨を宣明し大に議員等の反省を促がし當局の優柔不斷を責めんとす而して過日推選會の際其意見二三に分離せる事既報の如くなるが今異相を傳へんに統監府一任說を主張せるものは既に民論を無視して官撰民長なる暴制を遂行せる當局者が何の面目もつて今更の如く適任者の推撰を諮問するを得ん縱令其處置は議會に於ける言質に據るとするも三浦理事官の內達によれば唯だ參考に資せんが爲めなれば隨意に斷行せらる可しと答ふるの外なし謂はゞ統監府一任說は强硬なる反對を表明せるものにして官撰によりて果して適任者を拉し來るを得ば自治機關の運用を圓滿に進行する得るか大に注意する處あらんが爲めなり又二三ヶ月延期說は比較的穩和なる主張にして此間に於て大に劃策する處あらんが爲なり要するに兩者其手段を異にするも意見を綜局すれば則ち官撰民長反對の氣勢を有し統監府は之に對し殆んど狼狽を極め居れり殊に今夕の有志會は恰かも熱狂の姿なりで官撰民長撤廢問題再燃の觀あり（電通）

●官民親睦大會彙報

十七日擧行の司法權委任實施祝賀會は既報の如く名は官民有志大親睦會と稱するも實は委任司法權實施の祝賀なれば最も盛大に擧行す可く發起人に於て鋭意準備中なり既に確定せる順序左の如し
一、午後三時半爆竹を合圖に開會
一、會員一同食堂に着席
一、發起人を代表せる開會の挨拶
一、來賓の祝辭
一、模擬店開始
一、餘興の手踊
一、午後六時に至り隨意退散
尙ほ司法權委任協約に就き特別の功勞ある曾禰統監を始め石塚長官倉富小宮荒井木內俵の各參與官國分佐竹兩秘書官石井榊原兩少將外波大佐木越中將佐藤十時の兩佐尉官を招待する筈にて既に夫れ〱案內狀を發せり又料理屋準備の祝賀模樣は午前八時壽町中檢番に藝妓八十三名仲居三十名男三十名集合し夫れより花車を曳きながら本町五六丁目より永樂町二三丁目を經て鐘路光化門に出で更に太平町に至り南大門通一丁目より四丁目を經て黃金町に出で明治町一二三丁目を通過して午後三時たる上本町四三二一丁目旭町南山を經て京城ホテルに着實會場にて餘興を行ひて中檢番に歸着する順序に決定し居れり當日藝妓仲居等は孰れも揃ひの衣裳が仕拂らひ粹客を喜ばしむる由

●神宮大麻曆本頒布 神宮奉齋會韓國本部にては韓國各理事廳管下に於ける在留民に對し皇大神宮大麻及び四十三年度曆本頒布を一兩日中より開始する筈なるが今年よりは同會韓國本部設置の爲め總て直轄として部員城山春吉氏を以て擔任せしめ既に各地方へは其々發送中なる由因に同會本部落成の上は來春四月下旬を期し副總裁二條公爵渡韓する事に決定せりと

●龍山驛の營業成績 十一月上旬龍山驛營業成績左の如し

乘車人員	二千六百七十八
同賃金	二千四百四十四圓五十一錢
降車人員	三千二百四十二八
發着手荷物斤量	九千三百七十七斤
同賃金	百四十九圓七十七錢
發送貨物屯數	三百九十四噸
同賃金	六百五十二圓卅三錢
到着貨物噸數	二千〇二十五噸
客車收入金	二千六百十七圓十一錢
貨車收入金	千〇四十一圓二十九錢

●女子種痘員の採用 漢城京畿全南江原忠南平北の各道に十一名の女子種痘認許員を採用したるに成蹟頗る良好なるより今回右の成蹟を日英博覽會に發表する筈なるが新たに黃海京畿平南咸北咸南慶南の六道觀察使より認許員採用に關し內部へ申出であり不日更に徐鳳宇外四人女子十三名採用の事に決定したりと云ふ

●一銀引繼立會官吏 來る廿一日より第一銀行と韓國銀行との間に事務引繼を開始するに就き藤原監理官は京城本店に野阪事務官は仁川支店に阿部事務官は木浦に主事豐田法學士は開城支店に出張立會する事に決定し阿部事務官は十六日出發すべし

●滿期歸休兵の歸還 龍山水原大邱方面滯營中の步兵第十三聯隊及騎砲工兵の各科兵員八百四十八名は今朝九時五分龍山出發歸還せり尙ほ明十六日は平壤駐在の步兵第二十三聯隊八百四十二名歸還する由而して右は孰れも本隊歸營の上滿期除隊となる

●最近米及大豆相場

	上籾	上玄米	上大豆
仁川	四、四〇錢	八、九〇錢	五、三〇〇錢
釜山	三、七三	七、五〇	五、三〇〇
馬山	四、〇〇	七、一〇	四、四〇〇
密陽	四、二五	七、二〇	三、二〇〇
海州	三、〇〇	七、五〇	三、七〇〇
鎭南浦	四、〇〇	八、五〇	五、五〇〇
龍岩浦	四、五〇	九、〇〇	六、〇五〇
平均	三、九四	七、八五	四、七七

●木內農商工部次官 既報の通り農商工部次官木內重四郎氏は大塚書記官淸水主事を隨へ愈々明後十七日出發の筈日數は三週間位の豫定にして會寧まで到らるゝやも知れずと

●京城の鐵道期成會 既報同會も兩來會議所及民團主催となり同發起者組織に就き各方面交涉斡旋中の處昨今に至り其議纒りたるに就き不日同期成會發會の式を擧行すべしと

●釜山輕便鐵道竣工 釜山鎭東萊間に敷設中なる輕便鐵道は既に六哩の工事を竣へ餘す處二哩に過ぎざれば兩三日中には全部竣工すべく開通の上は京釜線と連絡輸送を開始す

●郡守の交際費支給 來年度より各道郡守に交際費を支給する筈にて約五十箇所に對し一箇所につき平均二百圓とし今十五日內部より右に關する一萬圓の豫算を提出したりと

●領事館の祝賀廢止 今十五日は白耳義皇帝陛下の命名日に相當するも領事レオン、ヴアンヤールー氏病氣の爲め祝賀を廢止したりと

●內部官吏定期昇給 內部に於ては十二月に於て定期の昇給を行ふに關し勤勉の程度及び出勤欠勤の日數を標準として目下調査中なりと

●二警部上京と訓諭 北靑警察署長石栗警部、會寧警察署長片岡警部は今十五日上京松井警務局長より一場の訓諭を受け各々赴任す

●國庫剩餘金の支出 伊藤公遺族贈與恩賜金十萬圓は隆熙二年度國庫剩餘金より支出裁可さる

●荒井次官の歸韓期 東上中の荒井次官は不破事務官を隨へ十六日東京出發歸韓の途に就くと云ふ

●香阪法務院長出發 大審院判事に轉じたる香阪元法務院長は本日午前九時發列車にて東上赴任す

●社寺の保存費豫算 社寺保存の爲め內部にては來年度に之が保存費豫算二万圓を度支部に請求せり

●附屬醫學校落成式 明十六日午後一時三十分より大韓醫院附屬醫學校の落成式を擧行する筈也と

●市原韓銀總裁歸京 韓國銀行總裁市原盛宏氏は昨夜歸京す

龍山通信 （十五日支局報）

▲民會の召集 龍山民會は來る十八日午後一時より開會議長及會計檢査委員の選擧を了りて前回の會議より宿題となり居れる民團功勞者表彰規則制定の件外一二議案を附議する豫定なりと

▲防火と用水 龍山民團に於ては新舊市街の中間を流るゝ旭川の二ヶ所に堰止め工事を施し防火用の貯水を爲す筈にて本日より該工事に着手したり

▲議員の送迎 明午後五時より龍山八景園に於て新舊議員送迎會開催の筈

▲歸還兵輸送 本月來滿期除隊となるべき第六師團歸還兵の輸送は本日より開始されたるが其日割は本日龍山、水原、烏致院の各驛より明十六日新義州新安州、平壤、黃州、開城の各驛より乘車十七日全部釜山に集合し同所より御用船にて歸還する豫定なり因に右補充新兵は來十二月九日十二日及び十七日釜山及び清津に到着すべしといふ

●石田支店長死亡 十八銀行仁川支店長石田貞一郎氏は豫て盲腸炎に罹り療養中の處去る十三日午後十時死去せり葬式は廿一日東本願寺別院にて執行

●學部編輯官新任 福岡縣立農學校長たりし澤誠太郎氏は今回學部編輯官兼事務官に招聘せられ不日着任の筈

●片岡警視の入京 元山警察署長片岡左一郎氏は十四日入京金澤旅館投宿

●檢事佐藤金助氏 木浦區裁判所檢事の同氏は十四日入京浦尾旅館へ投宿

●岡田部長の來着 慶北警察部長警視岡田宣藏氏昨日着京山本旅館へ投宿

●須藤事務官來京 平壤財務監督局事務官須藤素氏十四日入京不知火投宿

●北浦專賣局技師 東京煙草專賣局技師北浦重之氏昨日入京巴城館へ投宿

●八田技師の出發 統監府間島派出所技師八田吉平氏昨日出發赴任したり

●土谷檢事の赴任 土谷檢事は釜山區裁判所檢事に轉任本日任地へ出發す

●海州典獄の赴任 海州典獄古垣宗次郎氏は一昨日筑後川丸に便乘赴任す

●豫備金支出裁可 帝室債務仕拂金二千七百圓豫備金より支出の件裁可す

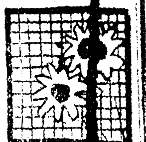
●市原總裁の談

記者は本日新任韓銀總裁市原盛宏氏を一銀支配人室に訪ふ總裁は今しも統監邸より歸りて昨夜同行歸城したる水越理事と要談中であつたが快く記者を引いて左の如く語つた△韓國とは却々因緣が深いと見へて又引續き御世話になる事になつたよ△東京滯在中は大分新聞記者諸君にいじめられたが伊藤公兇變以來は其方へ全力を注いだと見へて韓銀などへ寄り付く記者はなかつた△東京の用事ですか皆濟んだ日本國庫金取扱に就ては大藏省及第一銀行と交渉を遂げ韓銀に於て取扱ふ事に契約を結んだ△一銀との財產引繼ぎに就ては成べく休日を利用して業務を休まぬと云ふので廿一日日曜日から引繼ぎを開始し廿三日の祭日で終る筈既に準備を整へてあるから遲滯なく濟すつもりです△各支店出張所は釜山を除き他は在來の一銀支店出張所を其儘引繼ぐ事になつて居る但大邱丈は從來の出張所を支店と改め其他の機關は當分現狀を維持し漸次增設改良さる方針である△行員も成べく一銀行員を採用し事務の澁滯なからしむる考です然し成べく小世帶にし經費を節減する積です

●漁業協約の紀念宴
十三日午後一時より農商工部水產局員
本技師等四十餘名にして盛會を極めたり

●京龍間の堀井調査
（甲）堀井周圍の關係善良にして設備完全飲用上無害なるもの日人の部六
日人の部六百七十二個韓人の部五百九十六個にして日本式堀井總計六百
に理化學的檢查を行ふ筈なるが今その意見を聞くに（一）井盖悉く人造石
丁後一々檢查を受くる事（四）共同井にして不完全なるものある時は家主

者は局員全部趙大臣菊池商工局長並に該協約締結に緣故有る俵次官塚
虎疫猖獗の當時井戸に…や其節にては之が浚渫又は修繕を施すと共に嚴重なる調査を行ひし結果如左
…生上飲用し得ざるもの日人の部百七十六個韓人の部百八十一個（丁）廢井
…も尙百七十八個にして需給相伴はず內部衛生局當事者は更に細菌學的並
…井設置の場所は一々警察に屆出で…



水源地を見せられた記（一）

祭子

十三日の午後水道會社の社員だが編輯の人に會ひたいと申込まれた、元來驚くには當らぬから驚かない、驚かないとて夫れが偉いのでないから別段自慢も致ない、早速に會つて見ると支配人バーハム氏の使者である、其の口上に曰く「御多用と御推察致しますが何うか一つ明日十一時迄に水口門即ち東小門へ御足勞願ひまして貯水地を御覽を願ひ夫れから水原地の御視察を願ひまして其所で粗餐を差上げたい」との事である、水原地や貯水池の現狀は此の水に賴りて繼げる命の所有地たる吾人は請ふても見て置く必要がある、と思つたから其厚意を謝して必ず罷出づる旨を答へして其使者の仁は歸らした、が所謂粗餐と水源地とに何れ程の關係と蚕緣と而して必要とがあつたのかは唐突なので考へ付かぬ、或る識者に聞いたら「夫れは考へぬが宜い」との事であるから考へぬことに爲て終つた。閑話休題、其の使者の仁の口上を其儘社長に取次いだ所が「然う云ふ理由なら足下に行つて貰はう、僕は日曜には集會があるから……バーハム君には足下から其の旨を傳へて居いて呉れ」との事、委細了承して直ちに日々社のH城子に電話して同行を求めて同子の同意を得た、全体水源地は御承知の通り纛島にあるので、聞けば暴徒も徘徊する相だがH城子と云ふ伴れがある、假令ドンと行られても道連れはある、死なば諸共である、との深い企らみのあつたことゝはH城子も知らなかつたらふ、他人は油斷の出來ないものとは此點の事だなど自分ながら感心した。十四日の十時半と云ふにH城子を其宅に誘ふ、H城子何やらソワ〳〵と落着かぬ樣子何うした事かと思つたら昨夜半から家内に病人が出來て……との事で都合よくば「僕は今日は失敬する」と來相である、斯くては折角の僕の企らみも水道見物だけに流れて終う譯である、或はH城子の烱眼なる僕の企みの底を見破つての託言ではあるまいか何れにしても天下の大事と觀念の眼を閉ぢて居ると「サア參りませう」と仕度の出來たH城子は僕の前に立つて居る、案ずるよりは產が易いとは此事である此れより先き案內の爲めに來た仁が集合地點を水口門即ち東小門と云はれたので一方ならず間誤付いた、會社へ電話しても專家留守と見へて出ぬ、聊か中つ頃で又掛けるが出ぬ何返掛けても出ぬ先に角會社へ行つて見るべしと決心して車を■る、會社員の妻君を捉へて水口門であると云…が分明したのだ、夫れつと計りに急ぐ途中で午砲の響きを耳にしたからモウ一行は出立し跡だらうとは承知の上で辿り着くと案の定夫れらしい氣色もない、然りとて默つて戻るも智恵のない話と日人巡査に水道會社のと聞きかけると横合から「へイ私で」と唐突である、元來案內其者が唐突である、水道會社は唐突が好きと見へる。

女房の喉突き

▲姦通したる申譯け

世の中の變遷につれて姦通の申譯も品變れりと見ゆ昔は地獄の沙汰も金次第とある頃は姦通の相場も七兩二分と定めありしも今は俗謠にも唄ふやう血の淚のある仲が聞く夫婦で暮せる譯ゆへ万一姦通の現場を押へられし其時は一寸喉でも引搔いて紅い血を見せホロリ淚の一雫も追加しやうものなら夫れで天下は太平に治まる國の寶の黃金町に住む某といふ者あり生國は日本にて其が女房は女なり女の亭主は男ゆへ某も矢張り男なるが某は平素甚だ女房を愛するより女房は何時の間にか亭主の肝膽を照してしまひ他處の男の肝膽を照し始めたりとも知らぬ亭主は女房可愛の一心から無駄金一文も使はずして稼いでは貯め貯めては稼ぐに追付く貧乏は今當世も餘り巾が利かず可なり貯め込みしかば某は惡うして置けば彼なる見込みと女房の認可を受け先頭より家屋の建築に取懸りツイ兩三日前棟上げを爲し知人を招きて祝宴を開きたり酒間の周旋は某が可愛い女房先登に立ち中券の藝妓二三名を卒ゐて隈なく世辭を振り蒔けば客も主人も嬉しく醉ふて滅法目出度う候ひける其際に女房の姿フイと見へずなれり間も無くれ客の一人も居なくなれり亭主はハテ面妖なと窃と其座を脫け次の間を覗いて見れば這は如何に女房は豫て肝膽照らし中なる前記の男と共に今や曲亊の眞最中と見たる亭主は前に斷り置きし如く矢張り男に相違なかりし程に雨となり雲となる暇も與へぬ大嵐不義者見つけた其處動くなど踊り込めばハッと愕ける男は脫兎の如く一跳ねはねて逃出せりサテ女房は豫定の行動ぬかりなく手近かにありし刄物を取るより早く喉に當てゝ一擦り擦れば其處は人間の皮肉に刄物正しく紅い血潮が流れ出でけるにぞ亭主は却て喫驚敗亡こりや待て女房早まるなと必死の聲を振り絞れば之れを聞きつけたる客人スワ唯事ならじと馳せつけて此の体を見て二度吃驚何事ぞと問へば周章切つたる亭主は分別も無く事の次第を言つてのくるに女房は面目なしと鬼女の如泣いて見するなりけり客人等は此の態を見たり聞いたり呆れと共に立歸へつたる其後は定めの如く家內和合芽出度かりける次第なるが茲に物の哀れをとゞめしは藝妓奴が身の上なり此の騷動に度を失ひ逃出さんと狼狽へ廻はれど生れ付いての近眼にて那方の柱にゴツリ此方の壁にゴツリと轉び遂に椽側より滑べり落ち地響き打たせてドツタンは頗ぶる痛さも摩りて居れる場合でなしと犬の眞似して往來に這出すや否や足袋をば脫て右手に捧げ持ち左手に小褄とつたものなり夫からさきは何處を何う走つて歸へりしやら當人も知らぬといふのじやもの記者に分つてたまるものか

統監邸内の出火

▲放火の形跡ありとも云ふ

本十五日正午統監官邸綠泉亭南側軒下より出火しアツヤ一大事に及ばんとせるを園丁是を見付け聲を限りに叫呼し統監府へ非常を傳へたる爲め同府員及消防等駈け付け辛ふじて鎭火せしめたり同亭は伊藤公の好紀念として永久に保存さる可き貴重なる建造物なれば曾禰統監は特に驚愕し殆んど懸命に全力を盡さしめたる由原因は種々の風說あるも吾が社は更に精探の上報導すべし尙ほ急報に接し見舞人來集し一時は非常の混雜を極めたりと

●觀世流謠曲大會

▲空前の大盛會

昨日京城和樂園に於て開催されたる同謠曲會は來會する者官民を通じて約八十名に上り頗る盛況なりしが今度の會合を期とし今後春秋二季に大會を催し尙ほ每月第一の土曜日を卜し京城婦人會に於て月並會を催すことに決定したりしと云ふ當日の餘興福引の文句は總て謠曲中の句を取りたるものなり其全文左の如し

本文

秋はてぬれば問ふ人もなし
秋も夜寒になり候へば
かき消す如くうせにけり
御姿をまま見へれはしませ
八千代をこめし玉椿
夜は來れども晝見えず
夜わらで通ひ給わぬ
八百萬の神あそび
まはれ岩戸の其はじめ
浦風までものどかなる
春や心を誘ふらん
都と聞けばなつかしや
思ひをのふる皆むしろ
思ふ寢覺の枕より
元の身ながら又こゝに
舟をよせ熊手にかけて
身を捨てゝ社後記にも
うき沈とせし程に
同じ流れの樣々に
昇る雲井や久方の
誠を現さばあさましやな
たしみてもかへらぬわ元の水
風の行衛も心せよ
胸打さわぐ計なり
まかれくに何を種とて浮草の
左右に着座して
皆此道をたのしむなり
あやうき心わ暇もなし
人目さがなやはづかしや
是社誠の親の慈悲よ
上り下りの旅衣
互に袖やしばるらん
如何にあれなる童部
共は何を笑ふぞ
袖をうるをす村雨の
ふしまろびてぞなき給ふ
迷ひつかれ給わんより
枝をため葉をすかし
名殘惜しの御事や
なう御覽ぜよ加程逸
花の香の聞へ候
道しるべしてたび給へ
神なりさわぎれうろしき
若し身の爲やあしかりなんと
梢にひゞく山彥の
髮にはれどろの雪をいたゞき
暗まぎれより現れ出る
のぼり兼たる景色かな
奥もの深き谷の戶に
思ひ思わじ我身一つに
夜ふけ人も靜まりぬ

景品

扇子一品　たばこ　烟草　鏡　小半紙　枕一　灯提　紙屑籠　美人ハガキ　國旗　盃　京紅　卷紙　鷄一羽　メン太魚　ワカメ　伊藤公國葬のエハガキ一組　魚釣具に鯛　木炭薪木　菊花　半裸体美人エハガキ　ボン　高砂人形　昆布　みき德利　謠本　ホヤ　傘　わらじ　車時間表　わさび　茸　貝　半巾　カルタ石　入野本　能造り　鉢の木の容德利　大根　櫻花漬　針糸　線香　大和衣　ラッパ　素麵　鼠取　風船　綿球　ダルマ　狸腹鼓

軍用金提供を迫る

▲古臭い脅迫手段

仁川署管內なる富平郡堂山面東陽里居住の權昌圭方に先日來無名の脅迫書狀數通舞込み軍用金の提供を迫り來るにぞ家人は安き心もなく戰々兢々の狀態にありしが去る十二日夜同人宅庭園に積載しありたる薪炭に火を點じ同じく其れと同時に何處よりか投書舞ひ込み其文面に曰く先日來請求せる金子を明日中に堂山橋邊りに埋沒して提供せざるに於ては新炭諸共住家を燒き拂ふべしと脅迫文句を列べあるものから家人は頗ひ上り其旨富平駐在所に訴出でしかば係警官四名は直に犯人の搜査に着手せしが嫌疑者として李敬千（四三）と云へるを逮捕して仁川本署に引致し目下取調中なるが右敬千と云ふは非常なる惡漢にして從來金浦其他仁川等にて强盜又は竊盜を働きし事數度ある不敵の兇漢なりと云ふ

●拾つた指環を賣る

▲計畫中に捕はる

仁川仲町三丁目居住の小管作次郎と云ふが一昨日午後一時頃韓人一名を同道して仁川署に訴出づるよう去る五日同人妻ちゑ（三八）と云ふが濱町一丁目より仲町三丁目に引越をする途中金指環一個を遺失したれば其後搜査中の處一昨日午後四時頃圖らずも濱町一丁目なる歌舞伎座前にて怪しき韓人二名佇立して指環の賣買を相談しつゝある模樣の審しき節あるにぞ側に至りて熟視すれば紛ふ方もなき同人妻の所持せし指環に間違ひなきにぞ直に有無をも云はさず右韓人を取押へて訴出でしとの事に其筋に於ては右韓人を留置し取調中

●異樣の風で通行

大分縣平民當時住所不定進藤國次（二〇）は十三日午前五時過ぎ本町三丁目を異樣の風體を爲して通行せるを本鄉巡査誰何して住所並に行先きを尋ねたるに明答せざるに依り西部署に連行き取調べたるに同人は大和町三丁目深水勇一方に奉公爲たるも當日解雇せられ龍山方面に奉公口を探しに行く所と判明し後來を戒めて釋放したり

●賊魁の引渡し

一時は七百の部下を有し近くは百餘の暴徒を隨へて江原道一圓乃至咸鏡南道の一部を橫行し惡虐無道盜さゝる所なき稀有の首魁金億石は先頃我が守備隊の逮捕する所となり當地憲兵分隊に護送し來りし事は既報の如くなるが引續き取調べ中なりし處愈々終了せしを以て本日京城地方裁判所に引渡す由なれば彼れの最後も近きにあるべし

●醉拂つて亂暴す

壽町一丁目七番戶無職伊藤一郎（三七）は去る十三日午後八時頃南大門通二丁目入口に於て酩酊の結果亂暴にも通行韓人の提灯を破りたる廉に依り南部署に一夜檢束の上醉醒の上說諭放還せり

●犬人を咬て逃ぐ

仁川新町二丁目魚商石田久吉の四男龜太郎（五つ）は一昨日午後四時宮町二丁目堀壽次郎の飼犬に咬み附かれ微傷を被りたるが該犬は其儘行衛を晦ましたりと

●火賊橫行ご風說

京城と水原との中間に位する果川郡及び始興郡方面に約三十餘名の火賊橫行しつゝある旨其筋に情報ありたりとは物騷千萬

●奴拍子の廢業

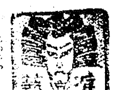
藝妓芝居に於て成効したる花月の奴は一昨日限り奇麗薩張り足を洗ひたり

●達摩忌說敎

花園町曹洞宗日韓禪寺にては來る十六七日の兩日午後二時より達摩忌法要並に說敎ある筈

●新町だより

昨夜新町遊廓の嫖客は百十五人散財高七百四圓四十四錢也



●壽座● ▲壽座 福井伊藤合同劇明十六日及び明後十七日の替りは昨年歌舞伎座にて伊東一座が演じて好評を博したる『新乳姉妹』全六幕にして役割左の如し

△場割（一）長崎病院（二）武村光子下宿（三）圓山公園（四）東京品川海岸（五）芝山內（六）武村俊三宅（七）大森海岸（八）上野園遊會（九）植木屋吉五郎宅（十）不破家奧庭

▲配役　海軍中尉武村俊三（伊藤）植木屋吉五郎　小泉三（二）武村光子（吉野）不破夏子（藤島）田舍者水落美助、乳母れ豐（北秋）武村俊三妻れ時（柴野）會社員成島猛（香月）法學士長田右二（小泉英）侯爵不破賴通（福井茂兵衞）

吉凶

本町五丁目　三一館判斷

十一月十六日舊十月四日八白先勝庚辰とる△一白　逆鬪の日なり大小さなく控へめにすべし旅行金談等効なし△二黑　中絕爭論起り易し又他人のため損害あり△三碧　音信小談を報することわらん爭論負傷避くべし△四綠　陰鬱なる物事徒勞に歸し易し新事改革見合すべし農事殖林には吉△五黃　過失体失念より損害耻辱を招くなかれ其外平靜△六白　若くは快事あり尙旅行開店創業婚姻等吉△七赤　總して盛運の日なり契約相談等克く調ふ又意外の便宜を得ることあり但し誘惑防ぐべし△八白　創始改易の事凶女色酒害盜難遺失防ぐべし△九紫　昇進の日なり旅行相談談判契約取組事整ふ

右は概括的判斷なり各人格別に付ては直接に同館の鑑定を請はる可し



●天氣豫報（自十五日午後六時 至十六日午後六時）

北西の風晴

十四日（華氏）　最低溫度　六〇、三　最高溫度　五〇、〇

各種洗濯石鹸 專門製造販賣 用途
附近銭湯、鐵道、鑛山、水道湯屋、散髮、諸工業用
京城旭町二丁目 (電話九七三番)
朝日石鹸製造所

▲無料紹介欄▼

人事部
●外交員募集 一日一圓以上の收入ある外交員一名至急入用 氏名在社(四七七)
●店員入用 十六七歲にて確實なる保證人有者 龍山京町古田米店(四八〇)
●下婢入用 十四五歲の下婢を求む餘暇には裁縫習字讀書諸禮生花等女子に必用なる教育を施す 氏名在社(四七九)
●求職 年廿六簿記に經驗あるもの至急職に就きたし 氏名在社(四八二)

物件部
●貸家 本町通り目抜の場所にて貸家あり希望者は來談あれ 氏名在社(四七〇)
●自轉車 英國製コースター付格安に賣渡したし 氏名在社(四七六)
●貸家 南山町二丁目二階建十疊と三疊と廻椽二階六疊二間廻椽井戸物置湯殿付家賃面談 氏名在社(四七八)
●貸家 北部齊洞十九統四に安價の貸家數間あり御希望の方は同所の内尾に就き問合せあれ

廣告

當選謝禮廣告
今般龍山居留團議員の總改選に就ては大方諸彦の深厚なる御同情を得當選の光榮を荷へ候段感謝の至りに不堪候右不取敢以紙上御禮申上候

稲垣甚
阪敬明
林武之進
大村百藏
大森嘉津藏
渡邊與三郎
海津三雄
兼古禮藏
金井善藏
竹内菊太郎
松本彌藏
藤野秀吉
執行猪太郎

今回の總選擧に際し多大の御同情を以て御盡力被下候段奉深謝候先は不取敢此段以紙上御禮申上候
明治四十二年十一月
龍山革新同志會
牛丸友佐
上野政次郎
佐藤峯太郎

●滋養と牛乳●
純良牛乳
京城東四軒町 岡野牧場 電話壹〇六九番
馬車配達
●衛生と消毒●

木炭 堅炭 松薪 松薪 卸販賣
陸軍諸官衙御用達 薪炭問屋
京城南大門外御成町(電話五八七)
南商會
同 南川出張所
同 龍山出張所
諸官衙納入多數御入用の節は拙者所有の山林に於て製造仕候間特に勉强致候條多少に不拘御用命被下度願上候

明治廿年七月創立● 京城代辦店 本町四 山口吳服店 電話九番
東京火災 海上運送保險株式會社
資本金一千萬圓● 事務所 京城本町二の三 電話一〇六〇番

伊藤公爵家寫眞係小川一眞撮影
故伊藤公爵葬儀係認可
伊藤公國葬寫眞帖
定價 全一冊金壹圓五十錢也 送料八錢

內容要目
故公最近大肖像 原カード紙 ダブルドーン刷 ○靈柩橫須賀上陸光景數圖○同新橋停車場より官邸に至る行列光景數圖○同沿道雜踏光景數圖○葬儀行列及沿道光景十數圖○大山東鄉諸元帥棺側徒步光景○國葬式場全景○元老大臣各國大使公使未亡人遺族其他文武百官參拜光景十數圖○大井村埋葬光景數圖等大判約五十頁

蓋し伊藤家累代の記念の爲に撮影を命せられたるものなるも公の如きは一家の私すべきに非ず國民の以て記念とせざるべからざるものに强て請ふて江湖に頒つ苟くも國民たるもの速かに一本を具へて故偉人を偲ばざるべけんや

發行所 東京新橋日吉町 小川寫眞製判所
韓國特約大販賣 京城明治町一ノ四九 前島商店
追而本帖は故偉人を偲はれて非常に申込者多く來る二十日より御申込順に依り配付可致候間此際至急御申込の程奉希望候敬具

たやすくうります
綿わた綿ワタ
ふとん地色々、ふとん調進、太物類、洋反物類
御問屋 京城明治町二丁目四ツ角
唐川商店 電話六一二番

廿五日迄開業祝として一割引
かいきまわた
進物用眞綿、眞綿製防寒具類
京城代理店 京城本町一丁目(長谷川町へ通る) 栗永商店

神戸資生分院
◎花柳病專門附、痔一般(注射療法)
●入院隨意●
京城相生町(南門湯横)
京城相生病院
院長 醫學得業士 廣田耕平

十一月十五日發賣
韓國統監 子爵 曾禰荒助閣下題詩
韓國總理大臣 正一品 李完用閣下序文
京城日報主筆 法學士 原田豊次郎君編著

伊藤公と韓國

洋裝大判全一冊 定價金六拾錢 郵稅金六錢
本書は伊藤公が大命を奉じ統監の印綬を帶びて韓國に臨みし以來滿洲の野に韓人の毒手に斃れしまで韓國に其の心血を濺ぎたる鴻業偉蹟を叙事したるものなり、故に公が記傳中の重要一部として珍重すべきものなるに最近韓國の變遷を知らんと欲するものの必讀を要すべきのみならず、卷頭には著者は統監府機關新聞たる京城日報主筆なり、材料豊富、叙事精明なる上に統監眼を着せる公が最近の眞影と京城出發當日統監官邸綠泉亭の揮毫せる別詩の寫眞版あり、前者は英姿颯爽、後者は墨痕淋漓、相待て益々本書の光彩を放つ、洵に近來の最好著也
發行所 京城本町二丁目 電話百四十五番 振替口座九〇五九
日韓書房

新形流行御羽織組金鎖帶〆
弊店の製造品は說明を要せす自ら能く之を語る
御注文の節は遞送無料にて御送致申候
東京淺草公園馬道一の廿八
三角堂栗原組糸店

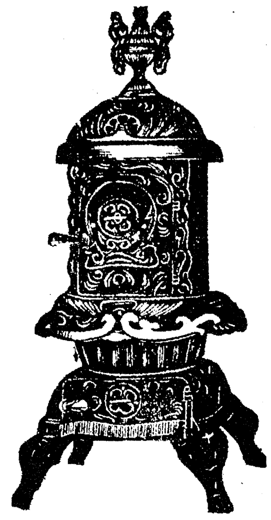
辯護士
特許辯理士
京城明治町二丁目(佛國教會前)
岩田仙宗
電話三五四番





代理店
京城本町三丁目 電話一〇八番 井上藥房
京城南大門通三丁目 電話七九九番 新井藥房
京城南大門外 電話六八七番 新井藥房
京城本町一丁目 電話四四番 一分店

熱誠敏速ニ法律事務ヲ取扱フ (紹介ヲ要セス)
辯護士 岡田榮
京城旭町一丁目六十七番戸 (電話三九八番)

暖爐各種

煙突取付並ニ煙突掃除大勉强
電四七一番 京城本町五丁目角一番戸 馬木勇吉
電三六四番 龍山山下町兵器廠官舍通入口 馬木支店
廣告

營業科目
和洋紙類
印刷附屬品
印刷インキ
和洋書籍
防腐デシン
穀物食鹽
諸染料類
諸官衙御用品調達
各學校御用品調達

委託販賣
東京 ランバーグ商會代理店
東京 中外アスファルト株式會社代理店
東京 千代田生命保險相互會社代理店
藤田合名會社
東京 博文館發行書籍特約店
東京 金港堂發行書籍特約店
釜山 臺鹽合資會社食鹽特約店

本社 京城明治町二丁目(電話二三〇番)
出張所 東京京橋南鍋町一丁目二九六三 東京電新橋地十番

大根大賣出
澤庵漬用大根
漬物用白菜
農商工部園藝模範場御拂下品 自園栽培
●鹽●糠●各種子●農具一式
例年の通り品質特撰の上廉價を以て販賣仕候間續々御用命之程願上候現品配達は來る廿五日より開始仕候追て御希望に依り漬込の御囑にも可應申候
京城本町一丁目(長谷川町筋)
三輪商會 電話三八六番

特約販賣 自製
大上商店
漬物 味噌 醬油 製造元
京城本町五丁目 (電話二五一番)
和洋酒、精酢、穀物麵類、銘茶、鑵詰、乾物荒物食料雜貨、ビール、米糀、塩辛、日本食鹽各種特約販賣尚御望に依り商品切手調進仕候

時節柄敷物及夜具等新調仕り室内の設備も相整申候御客樣に對しては叮嚀親切を旨とし調理の義は從來よりも一層勉强可仕候間倍舊の御引立奉願候
京城南山町四丁目
原金旅館 (電話長一〇七番)

眼科專門
京城本町一丁目憲兵分遣所前
江頭眼科醫院 (電話三三)
前漢城病院眼科部長 醫學得業士 江頭富雄

入院隨意
松岡醫院
南山町二丁目
電話六七五番
各科診療

★株式會社百三十銀行 韓國總支店
京城本町二丁目十五番戸 電話五十八番
資本金五百萬圓 頭取 安田善三郎

爲替取組先
畿内 大阪、京都、西陣、伏見、奈良、郡山、八木、高田、田原本、堺、貝塚、岸和田、御影、兵庫、神戸、平野、住吉、茨木、下市
東海道 名古屋、東京、横濱、大磯、甲府、静岡、山田、半田、熱田、四日市、津、桑名、松阪
東山道 彦根、八幡、大津、長濱、大垣、岐阜、前橋、伊勢崎、宇都宮、福島、若松、青森、秋田、能代、七崎、高崎
北陸道 小濱、福井、敦賀、鯖江、金澤、大聖寺、富山、伏木、新潟
山陰道 大宮津、舞鶴、新舞鶴、豊岡、鳥取、米子、境、松江、久手、大田
山陽道 龍野、姫路、西大寺、寄岡、高梁、玉島、福山、鞆、府中、尾の道、三原、廣島、岩國、山口、柳井、下關、徳山、小郡、長府、平生、網干
南海道 牛窓、味野、岩見、岡山、串本、御坊、田邊、新宮、和歌山、尾鷲、州本、撫養、徳島、善通寺、丸龜、高松、八幡濱、川之石、宇和島、今治
西海道 直方、飯塚、博多、福岡、三津ヶ濱、久留米、若津、中津、小倉、若松、行橋、後藤寺、佐伯、別府、門司、大分、伊萬里、牛津、長崎、佐賀、熊本、宮崎、鹿兒島、八幡、長洲
北海道 函館、小樽、札幌
台灣 臺北、臺南
清韓國 仁川、釜山、元山、鎭南浦、平壤、木浦、羅州、大邱、群山、安東縣、晋州、尙州、馬山
銀行一般の業務精々便利取扱可申候

日本郵船株式會社 電話十番
瀛船出帆廣告 仁川
仁川海岸通 電話三九番
貨物及船客取扱店 郡回漕店
●釜山、長崎、門司、神戸行 山東丸 十一月廿日午後三時出
●大連、太沽行 高砂丸 十一月十八日正午時出
●大連、芝罘、秦皇島行 山東丸 十二月七日午前六時出
●大連行 酒田丸 十二月七日正午時出
●釜山出帆 元山、清津、浦鹽行 神戸丸 十一月十七日午後時出
御注意 御乘船の際ハ稅關波止場ヨリ本船迄送迎艇ニテ御送リ可申候送迎艇ハ本船出帆ノ五十分前ニ解纜ノ事